

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2019～2022

課題番号：18KK0362

研究課題名（和文）紛争後地域における環境管理と伝統的ガバナンスの機能

研究課題名（英文）Environmental Management and Function of Traditional Governance in Post-Conflict Areas

研究代表者

宮澤 尚里（Miyazawa, Naori）

早稲田大学・社会科学総合学術院(先端社会科学研究所)・主任研究員

研究者番号：80625476

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,900,000円

渡航期間： 20ヶ月

研究成果の概要（和文）：紛争後社会で環境資源を管理するにあたり、伝統的ガバナンスが効果的に機能するための方策を分析することを目的とし、伝統的ガバナンスに関する法政策と適用事例を検証した。特に、インドネシアにおいて、ウタヤナ大学と協力し、フィールド調査を実施し、伝統的ガバナンス、伝統文化、スバックに関する政策、適用事例、実態について調査できた。特に、地方自治体、大学、NGO、村落組織、農業組織、農家ら等に対しインタビュー調査を行い、異なる視点からの有益な情報を聞き取ることができた。コミュニティとのアクション・リサーチも実施し、伝統的ガバナンスに影響を与えている制度・要因、対応策について調査分析することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は海外事例に根差した実証的な研究であり、海外の大学との共同研究で長期滞在することにより、研究の基礎材料となるデータの量と質を高めることができた。伝統的ガバナンスを適用している地域では、資源の回復につながり、地域社会の安定や和解の促進に影響している事例も収集・分析してきた。これらの研究成果は「研究者」および「実務者」として有益なものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The research examined policies and applied cases on traditional governance, to analyze measures for the effective functioning of traditional governance in managing environmental resources in post-conflict societies. In particular, a series of field surveys in Indonesia in cooperation with Udayana University was conducted. The research analyzed policies, applications, and realities related to traditional governance, traditional culture, and Subak. Furthermore, interview surveys were conducted with local governments, universities, NGOs, village organizations, agricultural organizations, and farmers to obtain information from different perspectives. Action research with local communities was also conducted to investigate and analyze institutions and factors influencing traditional governance, and possible measures to address them

研究分野：環境管理、コミュニティ開発

キーワード：環境管理 伝統的ガバナンス 環境資源 ガバナンス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

紛争後社会で環境資源を管理するにあたり、伝統的ガバナンスが効果的に機能するための方策を分析することが、本研究の目的である。紛争後社会における伝統的ガバナンスに関する法政策と適用事例を検証してきた。環境政策の議論では、「生物多様性戦略計画 2011-2020 及び愛知目標」（2002 年採択）においても、「伝統的知識が尊重され、主流化される」ことが目標として定められる等（目標 18）、資源管理のために伝統的制度に基づくガバナンスを見直す動きがある。紛争後の状況において、伝統的制度が様々な機能を持っていることを観察し、学術関係者や政府関係者等との議論を重ねてきた。

インドネシアにおいては、伝統的ガバナンスに関する議論の展開の中で、国家法を排他的に適用する法集権主義（legal centralism）に厳格ではなく、その領域内における多元性を寛容に受け入れる法多元主義（legal pluralism）に基づく立ち位置がとられている。この点は独立後にとられた多くの法制度に反映されている。

2. 研究の目的

多くの紛争の根源的原因ともなってきた環境資源は、紛争後の復興の成否に影響を与え、平和構築を目指すために重要である。紛争後社会で環境資源を管理するにあたり、伝統的ガバナンスが効果的に機能するための方策を分析することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

インドネシアを主対象とし、ウダヤナ大学との共同研究を行い、フィールド調査を実施した。伝統的ガバナンスをめぐる政策・法制度を分析し、伝統的ガバナンスに関するフィールド調査を実施することができた。特に、地方自治体、大学、NGO、村落組織、農業組織の関係者に対しインタビュー調査を行い、異なる視点からの有益な意見を聞き取り分析を進めることができた。

4. 研究成果

紛争後社会における伝統的規範、組織、意思決定プロセス等の、伝統的ガバナンスに関する法政策と適用事例を検証し分析した。特に、インドネシアにおいて、ウダヤナ大学と協力し、フィールド調査を実施し、伝統的ガバナンス、伝統文化、スバックに関する政策、適用事例、実態について調査できた。特に、地方自治体、大学、NGO、村落組織、農業組織、農家ら等に対しインタビュー調査を行い、異なる視点からの有益な情報を聞

き取ることができた。さらに、コミュニティとのアクション・リサーチも実施し、伝統的ガバナンスに影響を与えている制度・要因、対応策について調査分析することができた。そして、国際会議の招聘を複数回受け、これまでの研究成果を発表することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Miyazawa Satoru, Miyazawa Naori	4. 巻 9
2. 論文標題 Harnessing Lisan in Peacebuilding: Development of the Legal Framework Related to Traditional Governance Mechanism in Timor-Leste	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Peacebuilding	6. 最初と最後の頁 163 ~ 181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18588/202105.00a175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 S.Miyazawa and N.Miyazawa	4. 巻 special issue
2. 論文標題 Harnessing “Lisan” in peacebuilding: Development of the legal framework related to traditional governance mechanism in Timor-Leste	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Peacebuilding	6. 最初と最後の頁 205-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮澤哲、宮澤尚里	4. 巻 6
2. 論文標題 東ティモールにおける国際社会からの支援と慣習法の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジアの法整備支援	6. 最初と最後の頁 205-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 16件／うち国際学会 14件）

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Enhancing Agricultural Resilience in the Face of Covid-19
3. 学会等名 The 1st Warmadewa International Conference on Science, Technology, and Humanity, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Agricultural Sustainability after the COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 The 2nd international conference on sustainable cereals and crops production system in the tropics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Impact of Covid-19 on Sustainable Agriculture
3. 学会等名 The joint conference of the 9th Asian-Australasian Conference on Precision Agriculture (ACPA) and the 1st International Conference on Innovative Agricultural Technology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Sustainable development after COVID-19 in Bali ”
3. 学会等名 Environment for a new era of Balinese life (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Agricultural development in the era of new normal in Bali
3. 学会等名 Achieving regenerative and Sustainable Development Goals (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Strategic Marketing Naturing Sustainable Agricultural Development in the New Normal Condition
3. 学会等名 Marketing Strategies of Agricultural Products for welcoming the new normal condition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮澤 尚里
2. 発表標題 The role of community organizations in combating coronavirus: case study from Indonesia
3. 学会等名 神戸大学リスクマネジメントセミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Natural Resource Management based on Community- Case studies from Timor-Leste and Indonesia
3. 学会等名 神戸大学リスクマネジメントセミナー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Natural Resource Management: Case studies from Bali and Japan
3. 学会等名 2nd international conference on Science Technology and Humanities 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Agriculture Development :Analysis based on case studies from Bali and Japan
3. 学会等名 International Workshop Dwijendra University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Sustainable Development with Social Innovation and Community
3. 学会等名 International conference: Multi-disciplines approaches for the sustainable development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Supporting Food Value Chain for Sustainable Agriculture
3. 学会等名 1st international seminar on community services (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Sustainable Development under the Impact of COVID-19
3. 学会等名 International Workshop: Academic Exchange Program between Waseda University and Naresuan University (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Governance of Heritage Area
3. 学会等名 International Seminar Heritage in South East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Environmental Conservation Effort to Sustainable Agriculture
3. 学会等名 International Lecture at Warmadewa University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Social Business at Japan Rural Area
3. 学会等名 International Seminar at College of Social Political Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naori Miyazawa
2. 発表標題 Intellectual Property and University in Japan
3. 学会等名 Socialization of Protection and Inventory Results of of Intellectual Property Right of Wayang Wong (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮澤 尚里
2. 発表標題 「地域社会における伝統文化の現代的役割 - インドネシアバリ島の事例から」
3. 学会等名 『国際開発学会』全国大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 宮澤哲、宮澤尚里	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 546
3. 書名 島田弦編『アジア法整備支援：インドネシア 民主化とグローバリゼーションへの挑戦』	

1. 著者名 宮澤 尚里	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 紛争後の東ティモールの環境管理	

1. 著者名 Naori Miyazawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Padjajaran University Press	5. 総ページ数 300
3. 書名 Youth and Social Design	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	スアンパ ケット (Suamba Ketut)	ウダヤナ大学・スパック研究センター・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インドネシア	ウダヤナ大学			